

園だより 春休み

主よ、あなたたちのたどる旅路を見守っておられる。

土師記 18 章 6 節

今年は白もくれんが満開のときを迎えています。毎年と同じ時期、けれども決して同じではない園庭の木々たちの様子。命あるものの当たり前の様子。子どもたちも同じです。決して同じではない、同じものを見ながら感じる心もちは一人ひとり。そんな豊かなそれぞれの想いに溢れる今年度の年度末を迎えられましたこと感謝いたします。3月の子どもたちはお互いに「ありがとう」の気持ちを伝えあい、日数の少ない幼稚園の日々を大切に過ごしました。そして、その日々には子どもたちの一年間の成長がぎゅっとつまっていました。

年度末になると、小学校を卒業しました。高校に入りました。大学にはいりました。などなど、節目を迎えた卒園児たちが訪ねてきてくれます。先日、大学生になります、と一人のお嬢さんが訪ねて来てくれました。幼稚園時代のことなど思い出話に花を咲かせました。その中で彼女は「私が今、こんな風にすごしているのはこの幼稚園で過ごしたからだと思ってます」と話してくれました。「どうしてそう思う？」と尋ねると、「幼稚園にいるとき、私はそのままの私でとにかく毎日が楽しく、それが当たり前で過ごしていました。けれども、小学校に行ってから、自分で、ゆっくりなんだ、ということに気づいたんです。それからの小学校から中学にかけてはいろんな思いをしました。けれどもどんな時も、幼稚園時代の自分があったから、私は私でいいんだって思えたんです。高校生になったら、分かり合える友だちに出会えて、充実した楽しい高校生活を過ごしました。本当にこの幼稚園でよかったって思ってます」と語ってくれました。私はおおきなおおきな宝物をプレゼントしてもらいました。

幼児期の育みは中々すぐに結果が見えるものではありません。ゆっくりゆっくり、大切に心の根っこを育てているからです。その育みの手ごたえは日々向き合う子どもたちからも沢山受け取りますが、全人的な成長は子どもたちが卒園してから、久しぶりにお会いする元保護者の方々からのお子様のお話であったり、訪ねてきてくれる素敵に成長した若者たちの様子から感じます。今回はなんと素直な言葉で言語化してもらいました。

江東YMCA幼稚園が願い、そのために日々良い環境を整える工夫を怠らず、一人ひとりの子どもたちに愛情を注ぎ、しっかりと向き合い、その子の賜物を大切に過ごす。そこから、子どもたちが自ら力を蓄えそれぞれに成長していくのです。それが全人的成長へと繋がっていく、そのことが彼女の言葉で確かなものとして受け取ることができました。感謝しかありません。今年度も幼稚園だよりを通して、幼稚園の想いをお伝えしてまいりました。つたない文章で、想いがそのままに伝わらない歯がゆさを感じることもありましたが、受け取り方は受け取る方々それぞれにお委ねいたしました。これからも江東幼稚園は変わることなく、子どもたちの「今」を大切に「自らの成長」に寄り添い子どもたちと共に過ごしてまいります。様々にお支えくださりご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

私は今年度で園長を退任いたします。15年もの長きにわたり、可愛い可愛い子どもたちと共に過ごさせていただきましたことに心から感謝申し上げます。

毎朝、園庭門で子どもたちの手を取り朝のご挨拶をするとき、その手のぬくもりを感じつつ保護者の皆様にお預りいたします」とご挨拶をしながら子どもたちの「いのち」をお委ねいただくことへの心の張りを感じてきました。今日一日もその子にとって幼稚園でのときが神様の恵みに溢れ、いただいている賜物が十分に輝く日々でありますように、と祈りつつ。その日々は思い出すと限りがありません。そのどれもが、その一つひとつがそのときに必要なときでした。「全てのことには時がある」という聖書の御言葉があります。その言葉通り、神様が備えてくださった私の園長としての15年間でした。素晴らしい保護者の皆様に出会い、お支えいただき、共に子どもたちのことを何よりも優先して考え合う先輩・同僚・後輩方に恵まれ、園長という役割を私なりに全うさせていただきましたこと、感謝申し上げます。これからもYMCAの教育・保育には携わらせていただく予定です。目先の成果、目に見える結果ではなく、一人ひとりの生きる道に真に大切な質の高い乳幼児教育を実践するために尽力してまいります。

これからもどうぞ、宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子